



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第292号
令和5年10月31日 発行
編集責任者 初村 一郎
http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「熱血星野監督に学ぶ」

校長 初村 一郎

ある新聞の投稿が目にとまった。「昔を引き合いに出すわけではないが、子どもにとってお巡りさんと先生は『絶対的存在』であった。親に『先生から怒られた』と言えば、おやじから大目玉を食らったものだ。熱血先生が思いきり子どもたちにぶつかることができる学校の復活を願う。」というものだ。

時代の流れなのでしょうがないと変に納得しようとしているのは私だけか？ 昔は熱血先生や型破りな先生は学校や地域でも認められていたが、近頃は様子が違う。結局、恐る恐る仕事をこなし、無難に枠の中に納まりがちになってしまい、名物教師と言われる存在が少なくなった。これは教員に限ったことではなく、家庭においても雷親父とか地震・雷・火事・親父といった表現をほとんど耳にしなくなった。学校でも叱られ家でも叱られ、子どもたちはたまったものではなかっただろうが、それでも逞しく立派に育ったものだ。それは、師弟、親子の関係が「情」でつながっており、ゆるぎない信頼に裏打ちされていたからである。

こう考えながら、私の頭にすぐさま浮かんできたのは、先月号に続き野球の話題となるが、数年前に亡くなった星野仙一監督である。プロ野球中日のエースとして「燃える男」、中日、阪神、楽天の監督では「闘将」と呼ばれ、2013年には楽天を初の日本一に導き、東日本大震災の被災地を勇気づけた。選手としては、闘志を燃やし気魄を前面に出して打者をねじ伏せた。監督としては、勝負を逃げての四球や被弾を嫌った。躊躇や引き下がっての失敗、無難、怠慢、単純なサインミス等、次につながらないミスは、どんな小さなことでも許さなかった。

しかし、その厳しさの裏には期待や優しさやユーモアがあり、言葉の端々からぬくもりが伝わる人だった。「後方支援する奥さんや家族がいてこそ全力でプレーできる」と、選手の家族、特に夫人の誕生日には花束等を贈った。打たれた投手には必ずリベンジのチャンスを与えた。打てなかった打者もまた使った。勝負に徹しきれない優しさが垣間見える。引退した選手の再就職先の面倒も見つめた。期待に応えた選手をめいっぱい抱きしめて迎える光景が、「指導力があり、自分を育ててくれる」とビジネスマンからも「理想の上司といえば星野仙一」が定着した。選手のロッカールームのボードに書かれた「決起」集会の文字を茶目つ気たつぷりに「血気」と書き直したりもした。

星野監督の好きな言葉は「夢」だった。「かなわないと思ったら、そこで終わり。挑戦し続けるからこそ人生の価値がある」と野球にすべてを注ぎ体現してきた。「俺の親父は俺が生まれる2ヵ月前に死んだからできなかったけど…。親子でキャッチボールほど、子どもの成長や精神状態がわかるコミュニケーションはないよ」心にしみる言葉である。

この時世だからこそ、星野監督に学ぶべきことがたくさんあるように思う。学校に限らず、社会全体が連

携し、信頼し合うことで、子どもたちと自然に喜怒哀楽を共感できる瞬間を育んでいきたい。時には一生懸命を一所懸命にして、その度ごとに「ほめるときは一所懸命にほめる」「叱るときは一所懸命に叱る」関係を構築したいものだ。

76回生 第2回進路検討会 9月26日(火)

今回は、学年全体の各教科・科目における学力推移を把握し、共通テスト本番に向けての教科・科目ごとの課題を分析・共有し、今後の生徒一人ひとりの学習の進め方に関する協議を行いました。その結果、理系の生徒の「理科」の定着が不十分であるという問題点が浮かび上がりました。理系の生徒の個別試験における理科の配点は大半が数学と同様の設定であり、既卒生と差が付きやすいポイントにもなっています。今後、計画的に丁寧に取り組み、苦手分野を補強していくことで総合的に理科の点数を伸ばしていくことが重要です。今後の頑張りに期待しています。

11月末には第3回の進路検討会を開催し、いよいよ共通テストおよび各大学への出願に向けた最終調整に入っていきます。12月には三者面談もありますので、しっかりとご家庭でお子様の進路に関する方向性を話し合ってください、受験本番に臨んでいただければと思います。教職員一同最大限のバックアップを行っていく所存ですので、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。【進路指導主事 福岡 圭三】

第2学年 進路別集会 10月3日(火)

ベネッセ・コーポレーションより加納学先生と高岡祐太先生をお迎えし、進路講演会を実施しました。高岡先生は、模擬試験における志望校と成績伸長の相関や、学習を始めて成果が出るまでの期間などを、データをもとに説明され、高い目標を掲げて早期から学習することの重要性についてお話くださいました。加納先生は、これからの社会に必要とされる人材や、ご自身が大学生活で得たことと社会人生活との関連性についてお話しされ、社会に関わっていくことを念頭に志望校選択をすることについて、生徒たちは理解を深めることができました。



【進路指導部 清家 知子】

76回生 共通テスト100日前集会 10月4日(水)

共通テスト100日前集会を実施しました。今年度の共通テストは令和6年1月13日(土)、14日(日)の2日間にわたって実施されますが、例年100日前の節目の日(今年度は101日前)に、今後の受験に向けての意識を高めていくために実施しています。会の中では初村校長先生およびPTA副会長の小笹山様より激励のお言葉をいただくとともに、共通テスト、あるいはその後の個別試験に向けての学習の進め方や気持ちの持ち方等についてアドバイスをいただきました。また、3年6組の小瀬ひな子さんが生徒を代表して挨拶を行い、「不安な気持ちもありますが、自分の成長したところに目を向け、皆で合格を勝ち取れるように、前向きな雰囲気を作っていき、全員が笑顔で3月を迎えられるようにしましょう。」という決意表明をしました。いよいよ受験本番です。日々の学習はもちろん、体調管理にもしっかりと気を配り、万全の状態に対策に取り組んでいきましょう。

【第3学年主任 月川 希】

事務室より

今年度実施いたしました工事関係については、次のとおりです。

- ① 調理室床改修工事 6月末竣工
- ② 第1体育館外部改修工事 8月末竣工
- ③ エアコン工事(社会科教室に新設・多目的教室ALPSを更新) 8月初旬竣工
- ④ キュービクル高圧機器取替工事 9月初旬竣工
- ⑤ A棟屋上土留改修工事 10月末竣工予定

今後とも、安全で快適な教育環境整備を図ってまいりますので、生徒の皆さんをはじめ、保護者の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【事務長 小林 英樹】

芸術鑑賞会 10月5日（木）

長崎ブリックホールにて、劇団東京芸術座の『未来』（重松清原作「カシの夏休み」（文春文庫刊））を観劇しました。自死をした友人の遺書に名前を書かれ苦悩する弟の心に寄り添おうとする姉。その姉自身も過去に似たような経験をして心を壊している、という重いテーマでしたが、ご来場いただいた保護者の皆様とともに、「いのち」について考えさせられました。



あらためて人の心の痛みを感じられる感性をもつ人でありたいと思わされる1時間半でした。

【自律活動部 麻生 今日子】

1年生の感想より（抜粋）

自分には遠いようで近い、少しリアルな内容で胸がドキドキしました。「長谷川君（姉の知り合い）が生きた最後の日と、生きられなかった未来の日々」の話から、残された人々は死んだ人の知らない「未来」を生きている、ということを改めて思い知らされました。自分の感情をコントロールできないみゆき（姉）も最後の方では心療内科の医者へ冗談めいたことも言えるくらいになっていて、弟を支えながら、自らの心の回復も垣間見えてよかったです。「未来」を失った姉が『いいひとになりたい』とまがきながらも、人と関わって『今を生きようとする姿』に感動しました。重いシーンの中、クストと笑える面白さも盛り込まれさすがだな、と思いました。



性に関する講演会 10月6日（金）

1年生を対象に「性に関する講演会」を開きました。講師は、長崎市内の中学校や高校で講演活動をしている中山安彩美様です。思春期における人付き合い、二次性徴、思春期における性の悩みについて、わかりやすくお話をしていただきました。生徒は、お互いの違いを認め合うことの大切さや自分や相手を大切にするために正しい知識を身につけることの必要性を感じることができたようです。生徒の感想の中には、「心も体も誰一人として同じ人はいない」「これからの時代、多様性は当たり前である」「女性だけが妊娠のことで悩むのは間違っている」などがありました。性に関することは人生を決めていく上で大切な知識になります。今日の講演会のことを忘れずに高校・大学生生活を送ってほしいと願っています。



【養護教諭 田淵 明日香】

金融経済教育講座 10月18日（水）・19日（木）

1年全クラスを対象に「金融経済教育講座」が行われました。講師は、十八親和銀行の常務取締役をはじめ、7名の行員が来校されましたが、全員が本校の卒業生でした。将来の夢をかなえるために、お金を貯める・増やす・借りる・備えるなどのライフプランについて、スライドを利用しながら説明してくださいました。生徒からの「株は高校生でも買えますか？」や「NISAって何ですか？」、「賭け事との向き合い方は？」などの質問にも丁寧に答えてくださいました。成年年齢が18歳に引き下げられたこともあり、若い時から継続的に金融リテラシーを身につけることが大切であることを学びました。



【家庭科教諭 小玉 宏美】

学年だより

第1学年 — 遙かかなた —

夕寒気を感じるようになりました。78回生も入学して半年が過ぎようとしています。他学年を顧みると3年生は共通テスト100日前集会を終え、2年生は高校生活の折り返し地点です。それぞれの立場は異なりますが、いつか必ず上級生の歩んだ道のりを自分自身も歩む日がやってきます。

さて、1年生としての後半にさし掛かっています。これは2年次以降の文理選択の最終判断の時期を迎えているということです。7月末に実施した三者面談では、それぞれの生徒の適性やご家庭での考えをお聞きしつつ、生徒本人にとって最適な進路選択がどのような形であるかお話しさせていただきました。2学期に入ってから必要に応じて担任との二者面談を実施しています。

遙かかなたに目標とする大きな「山」を見やりつつ、その山へ向け突き進む列車の視点が重要だと感じます。遠くにある「山」はどれだけこちらが近づこうともその姿は変わるものではありません。それに比して目の景色は目くるめく様変わりしていきます。高速であればあるほど目近なものは移り変わり、遠くの景色は遠大なまま変化することはないでしょう。1年次にはこの遠くを見通す視線が大切だと考えています。毎日の暮らしの中でどんどん変化していく現実はあるにしろ、遠く見据えた未来は頑として揺るぎなく存在し続けている。このような目標を1年次に心の中に思い描くことができるかがこれからの高校生活をより充実したものにするための鍵だと感じています。

【第1学年主任 石橋 可巳】

第2学年 — 準備と確認 —

現在、学年では修学旅行に向けて準備を進めています。10月31日（火）には第2回事前研修を行い、いよいよ修学旅行が近づいてきたと実感しています。安全面に十分に気をつけ、よりよい研修となるよう、担当者とも連絡を重ね連携を密にしています。ご家庭におかれましても、準備や体調管理等をよろしくお願いいたします。

さて、先日行われた部活動の新人戦では多くの生徒の活躍がみられました。また校内においても、各種委員会や生徒会活動など、それぞれの立場で役割を果たしてくれています。今後さらにリーダーシップを発揮してくれることを期待しています。

学習面においては、11月4日（土）、5日（日）に進研記述実力テストが実施されます。初めての5教科の模試であり、これまでの学習の成果を測るテストです。得られた結果を確認し、今後の指導に生かしたいと思います。

【第2学年主任 宗田 将平】

第3学年 — 受験シーズン到来 —

高校最後の定期考査である学年末考査が終わり、10月からは放課後の課外授業を進路別に講座を選択する形で実施しています。生徒自身が自らの志望校を考え選択することで、モチベーションも高く、とてもよい雰囲気を受講しています。共通テストまで100日を切り、いよいよ本格的な受験シーズンの到来を実感しているところです。

先日の共通テスト100日前集会で次のような話をしました。

『この100日間、勉強がすべてではないが、勉強のことをまず第1に考える』この期間はきついこともあるとは思いますが、W76回生が皆と一緒なら、歯をくいしばって、笑顔で乗り越えることができると期待しています。体調管理も含め、ご家庭でもご協力と激励のほどよろしくお願いいたします。

朝晩の冷え込みが厳しさを増してきました。保護者の皆様におかれましては、ご自愛ください。

【第3学年主任 月川 希】